

西尾市で「露地イチジク」出荷ピーク 1日8,000パック・約2.8トンを収穫



8月中旬から8月下旬にかけて、露地イチジクが出荷最盛期を迎えます。

西尾市では7月29日より露地イチジクの収穫を開始しており、最盛期には1日当たり約8,000パック(1パック360個)を収穫します。11月上旬まで収穫が行われ、約半数がJA西三河あぐりセンター小牧、残り半数が安城市にあるJAあいち経済連パッキングセンターで等階級別に選果され、主に関東・中京・北陸方面の市場へ出荷されます。

西尾市では、51人の生産者が8.9畝で年間約170トンのイチジクを生産し、全国トップクラスの生産量を誇る西三河地区のイチジク生産を支えています！！



【作柄】徹底した防除によりアザミウマ類の発生は少なく、高温と十分な日照量で果実肥大は良好、糖度も十分。初日より量・質ともに順調な出荷が続いています。

■取材対応日■

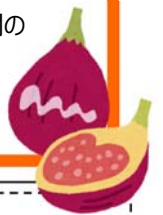
【日時】8月14日(金) 午前7時50分集合

【集合】JA西三河でんぱたショップ小牧店 駐車場 (西尾市吉良町梶見堂38番地2)

※集合後、収穫を行っているイチジク生産者の圃場へご案内します。

※取材される報道機関の方は、JA西三河企画課の尾形までご連絡ください。

※天候不順の場合には収穫を行わない場合があります。その場合には、事前に取材のご連絡を頂いていた報道機関の方にはこちらからご連絡いたします。



【お問い合わせ・ご連絡先】

JA西三河(西三河農業協同組合)

〒445-0073 愛知県西尾市寄住町下田15 企画室企画課 広報担当:尾形怜美

TEL:0563-56-5214 担当者携帯:070-1414-6818

HP: <http://www.ja-nishimikawa.or.jp/> Eメール: kikaku@ja-nishimikawa.com

※ このニュースリリースは、西尾市の記者室在籍報道機関あてに発出しています。
また、同内容をJA西三河ホームページの「報道機関向け資料(ニュースリリース)」ページにも掲載しています。

高齢化に歯止め、若返りで産地活性化へ ～全国トップクラスのブランド「西三河のイチジク」を守る！～

●産地を支えるいちじくスクール

JA西三河は愛知県、西尾市、JAあいち経済連と協力して、2015年よりイチジク専門の新規就農者向け栽培講座『いちじくスクール』を開校し、現在までに38名が受講。うち4割に当たる15人が計252アールで新規就農しています。JA西三河いちじく部会にも11人が所属し、同部会員51人のうち2割を占めています。

今年度は、5期生1人と6期生2人がイチジク栽培を学んでいます。

3ヶ月にわたる収穫実習を通じて、
就農に必要な栽培技術を
身に付けます



選別実習に取り組むいちじくスクール生

●パッキングセンターの利用による作業の省力化 & 経営規模拡大

PCを利用しパック詰め作業を分業化することで、作業の省力化ならびほ場管理に専念することができ、経営規模拡大と品質向上を図っています。部会では約7割にあたる34名の生産者がPCを利用しています。

●6次産業化で地元農産物をPR

西三河の自然の恵
JA西三河オリジナル加工品
「いちじくジャム」「いちじくゼリー」



JAでは6次産業化にも力を入れており、西尾産の農産物を使用した独自の加工品を取り扱っています。ラインナップは西三河のブランド米「矢作の恵」を使用したポン菓子や、ペットボトルで飲む『西尾の抹茶「和」』など全15種。

加工品を通じて地元農産物の魅力を発信し、農家所得向上につながっています。

【産地情報】

生産者部会の名称：JA西三河いちじく部会（井土和之部会長）

部会員数：51人 耕作面積：約8.9㌥

生産量：173.2ト（ハウス19.5ト・露地153.7ト） 出荷品種：「柵井ドーフィン」

販売額：1億5,000万円（露地・ハウス合計）

出荷時期：（ハウス）3月下旬～8月上旬 （露地）7月下旬～11月上旬

出荷先：主に中京市場・京浜市場

流通：「西三河いちじく部会※」を通し、4JA共販で京浜地域（60%）・中京地域（25%）・北陸地域（15%）

※JA西三河いちじく部会は、JAあいち中央・JAあいち豊田・JAあいち三河の生産部会とともに「西三河いちじく部会」を組織しています。

西三河いちじく部会の生産量：725.7ト（2019年度）

全国の出荷量：11,561ト

愛知県の出荷量2,008ト（全国2位）（1位和歌山県：2,278ト、3位兵庫県1,086ト）

【データ参照】e-Stat 平成29年産特産果樹生産動態等調査